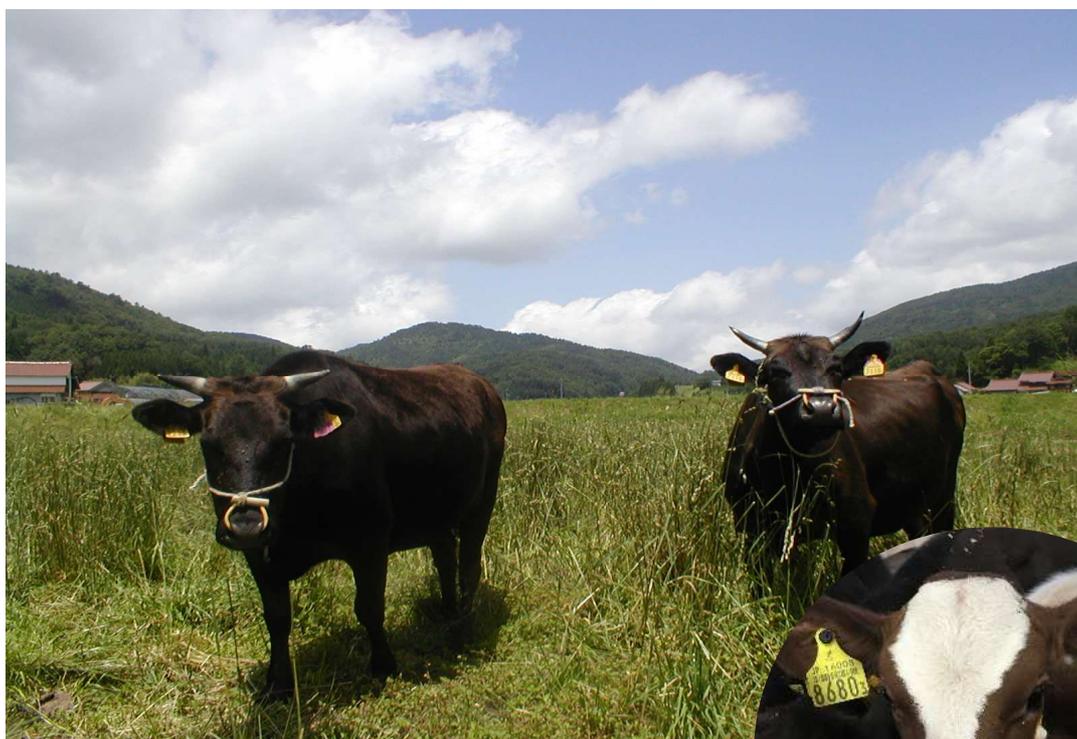


第100回広島県畜産共進会 記念フォーラム



日時:令和6年11月27日(水)13:00~16:00

場所:庄原市民会館 大ホール



ENERGY
OF
PEACE
ひろしま



第100回広島県畜産共進会記念フォーラム実行委員会

記念フォーラムの開催にあたって

明治42年(1909年)に始まった広島県畜産共進会は、記念すべき第100回を迎えました。

この共進会に関わる関係者で話し合いを行い、従来の広島和牛肉の品評会(枝肉の部)や、和牛及び乳牛の雌牛品評会(種畜の部)に、本日の「第100回広島県畜産共進会記念フォーラム」を加えた一連の行事として、開催することといたしました。

このフォーラムの狙いは、全国の中でも古い歴史を持つ広島県畜産業について、生産から消費にわたる幅広い関係者と相互理解を深め、将来にわたる畜産業及び関連産業の発展につなげることにあります。

広島の酪農・肉用牛の歴史に関する講演会や、シェフ・流通関係者・生産者によるパネルディスカッションに加え、一流シェフの手による「広島和牛肉と乳製品料理」を実際に試食いただける時間も、用意しました。

皆様のお時間の許す限り、ご一緒いただけますと幸いです。

令和6年11月27日

第100回広島県畜産共進会
記念フォーラム実行委員会

プログラム

◆ 開会式(13:00~13:20)

- ・主催者あいさつ 全国農業協同組合連合会広島県本部長
- ・来賓祝辞 広島県知事
- ・来賓祝辞 庄原市長
- ・来賓紹介

◆ 特別講演「広島の牛の歴史について」(13:30~14:20)

- ・「和牛の歴史 ー日本史に刻まれた蹄の跡ー」
島根大学法文学部社会文化学科 板垣 貴志
- ・「七塚原120年のあゆみ」
広島県立総合技術研究所畜産技術センター 河野 幸雄

◆ パネルディスカッション (14:40~15:10)

- ・広島の牛の「食の切り口」からの価値

◆ 閉会式(15:15~15:20)

- ・主催者あいさつ 広島県酪農業協同組合代表理事組合長

◆ 広島牛料理の試食会(15:25~16:00)

- ・料理創作:アベニール・タウン 水橋 聴 (敬称略)

●本フォーラムに関するご質問・ご意見は インターネットでお受けします。

右のQRコード及び下記インターネットアドレス先で
ご質問・ご意見を承ります。(期間:令和6年12月13日まで)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=3687>



第100回広島県畜産共進会記念フォーラム実行委員会

(事務局:広島県農林水産局畜産課酪肉振興グループ)
電話:082-513-3598 ファックス 082-228-0396

特別講演 講師紹介

◆特別講演1

和牛の歴史 ～日本史に刻まれた蹄の跡～

島根大学 法文学部 板垣 貴志(いたがき たかし)



島根大学 法文学部 准教授

専門は、日本の近現代史。民俗学的な研究手法を取り入れ、庶民生活の歴史を探求している。また、地域に残された近現代の資料の整理・調査を、遊び心を大切にしながら市民参加の形で取り組んでいる。著書に『牛と農村の近代史』、共著に『地域とつながる人文学の挑戦』など。

略歴

- 2008年 神戸大学大学院文化科学研究科 博士後期課程修了
- 2011年 神戸大学大学院人文学研究科特命助教
- 2013年 神戸大学大学院人文学研究科特命講師
- 2015年 島根大学法文学部准教授 (現職)

◆特別講演2

七塚原120年の歴史

広島県立総合技術研究所 畜産技術センター
センター長 河野 幸雄(こうの さちお)



略歴

- 1989年 広島大学生物生産学部卒業
- 1989年 広島県立畜産試験場 肉牛部研究員
- 2014年 博士号(農学)取得
「極短穂型飼料用イネの栄養特性と給与技術に関する研究」
- 2019年 広島県立総合技術研究所畜産技術センター飼養技術研究部長
- 2022年 広島県立総合技術研究所畜産技術センター次長兼技術支援部長
- 2024年 広島県立総合技術研究所畜産技術センターセンター長(現職)

(敬称略)

和牛の歴史 ～日本史に刻まれた蹄の跡～

島根大学 法文学部 板垣 貴志

－役肉用牛から肉用牛へ－

拙著『牛と農村の近代史－家畜預託慣行の研究－』（思文閣出版、2013 年）

畜産の歴史 各時代と社会において家畜の持っていた多面的機能（蓄財・金融・保険）を視野に入れる
≠ 畜産業発達史（近代産業としての発達史）

家畜預託慣行 = 家畜を預託・賃貸借・共有する行為の総称

1880 年代の松方デフレ期に飛躍的に拡大 → 1930 年代後半から急速に衰退

⇒ 家畜を介して形成される人々の社会関係に着目

日本近代化に不可欠とされた要因や展開過程を解明

インフォーマルな社会保障制度（金融・保険） = 相互扶助慣行 = 農業共済 NOSAI の源流

家畜預託慣行は資本主義化の圧倒的な波力を緩衝する地域社会の防波堤 = 歴史的意義

役畜から用畜への変化 = 2 段階

⇒ 家畜をめぐる社会関係の狭隘化 「畜産農家」に限定

⇒ 1930 年代～

1929 年 家畜保険法施行 1931 年 有畜農業奨励規則施行

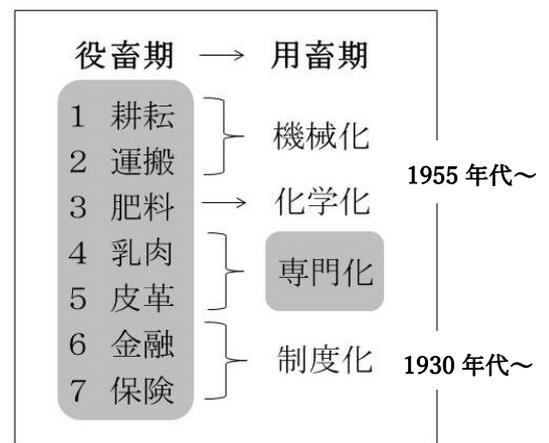
1933 年 農業動産信用法施行 1937 年 森林火災国営保険法

1939 年 農業保険法

→ 1947 年 農業災害補償法（農業共済 NOSAI）

⇒ 1955 年頃～ 耕耘機の普及 化学肥料の普及

農業共済制度が 1930 年代から準備されていた ⇒ 牛馬を手放すことを可能にした制度的な要因



家畜 生命を持った動産（交尾・交配する動産 増殖する動産 死亡する動産）⇒ 農業共済

農業機械 経年劣化する動産 ⇒ 間接的・直接的な補助金（農家経営に質的な影響 過剰投資）

農業機械の導入 ⇒ 労働集約的農業（有畜農業）からの解放

⇒ 農家内経済動物循環（繁殖・堆肥）を断絶させた ⇒ 畜産の専門化

－ 戦後畜産業の展開 －

第1期 1945（昭和20）年－1956（昭和31）年 役畜的飼養としての普及拡大

軍用馬需要の喪失 朝鮮牛輸入の杜絶 化学肥料の入手難 ⇒ 牛価の高騰
 役肉牛飼養最高値 1956年 271万9000頭 231万9000戸

第2期 1956（昭和31）年－1967（昭和42）年

役畜的飼養から肉畜的飼養への移行

耕耘機使用農家 > 畜力利用農家

水田 1960年 畑 1961年

和牛飼養農家

1958年 77.1% 1963年 45.2% 1966年 15.1%

肥育の進展 若齢肥育の増加

乳用雄肥育の開始 肥育牛の多頭化

輸入濃厚飼料への依存

1962年 家畜改良増殖審議会 肉利用重視へ

役肉用牛 ⇒ 肉用牛 1966年 第1回全共開催

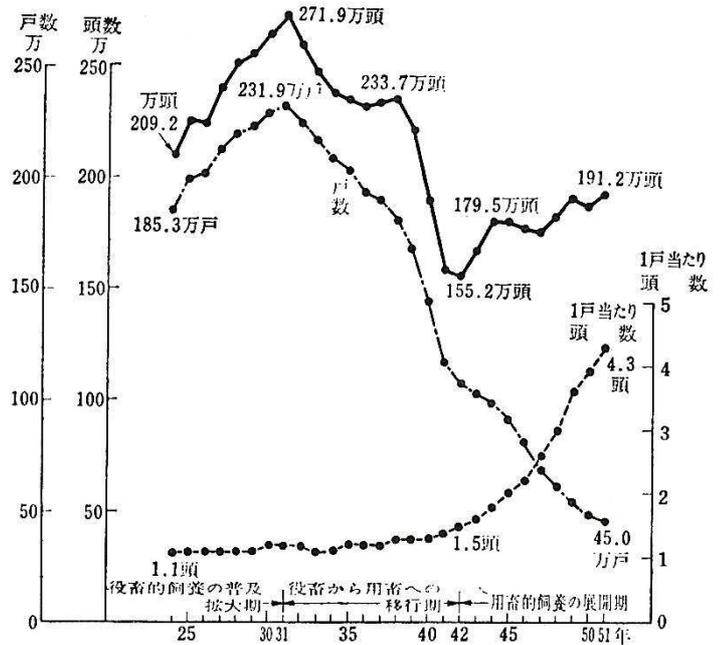
第3期 1967（昭和42）年－

肉畜的飼養の成立展開

肉用牛頭数の最低値 1967年 155万2000頭

肉用牛振興施策の展開 肉用牛経営の規模拡大

第2図 肉用牛飼養の戦後の動向



注) 農林省「畜産統計」より作成。(水間氏による)

和牛の飼養形態の変化

使役用が激減 / 繁殖用（小取り）と肥育用が増加

－まとめ－

日本の農業機械化 日本の畜産の変容 技術革新（家畜人工授精の大きな影響）

役畜⇒用畜 極めて短期間に実現

畜産 ⇒ 畜産業（近代産業的に） 畜産の工業化・脱自然化（畜産業の確立）

/ 「畜産農家」の出現（専門化） 労働の細分化・質の変化

家畜人工授精技術（液体精液⇒凍結精液）の普及

種牡牛（種雄牛） / 政治・官への関係強化（政治運動の活性化） 補助金 公益化の論理

和牛 / 従来の地域的なものからの離陸 中国地方 ⇒ 全国化

「七塚原 120 年の歴史」

広島県立総合技術研究所畜産技術センター 河野 幸雄

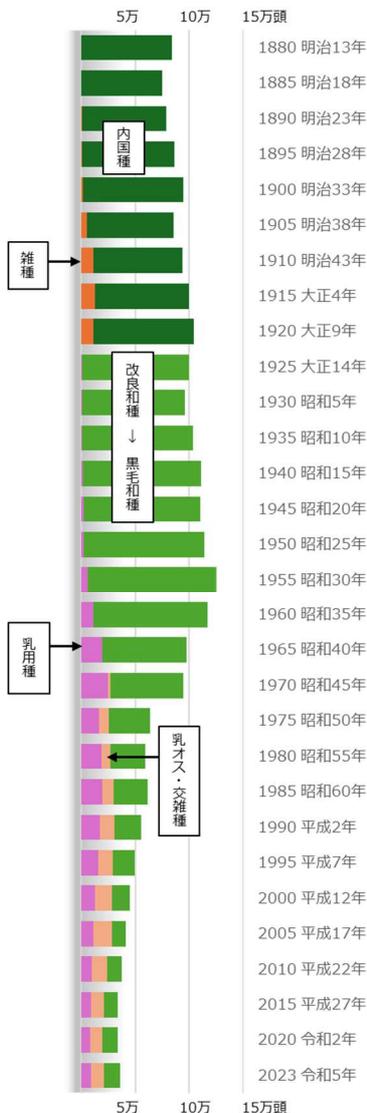
畜産技術センターの歴史は古く、1900 年（明治 33 年）に創設された国立七塚原種牛牧場に遡る。1923 年に広島県に移管された後は、種畜場や試験研究機関として活動し今日に至っている。この間、牛、豚、めん羊、山羊、兔、鶏に取り組んでいるが、本講演では、テーマを牛に絞り、広島県の畜産の歴史と共に歩んできた 120 年余に亘る七塚原の活動について時代を追って紹介する。

【国立七塚原種牛牧場設立の背景】

明治以前から、広島は牛の模範的な役用牛として名声を博し、広く九州、四国、近畿地方の需要に向けた生産が盛んで、飼育頭数は明治中期から大正末期まで日本一であった。そして、明治維新以降、明治政府は欧米からの外国種牛の輸入や産牛組合の設立を奨励するなど、畜産の普及に注力し、外国種の増殖や内国種との交雑による内国種の改良と酪農の導入を目的に、七塚原に国立種牛牧場を創設した。



国立七塚原種牛牧場時代の放牧風景 ©畜産センター保存資料



【国立時代】1900～1923 年

日本に適する品種としてシメンタール、ブラウンスイス、アイシャアの 3 品種を選定し、12 年間で 208 頭を輸入し、中国地方各地から導入した内国種を用いて、生産した純粋種や雑種を原種牛として全国各地に供給し、牛の改良に貢献した。明治 43 年頃までは全国的に雑種ブームが起ったが、雑種は役に適さなかったため、役用を重視する広島では雑種の割合は全体の 1 割程度に留まった。その後、各県ごとに目的に合った役肉兼用牛を目指した改良和種の時代を経て、黒毛和種として認定されることになる。一方、乳用種として輸入したアイシャアは小型で日本人にも扱いやすく、乳牛の飼育と乳加工技術の導入に貢献し、酪農の創成期に一定の役割を果たした。1913 年からは、徐々にホルスタインに転換した。

【種畜場時代】1923～1971 年

1923 年（大正 12 年）に、国から移管され県立の乳用牛の種畜場として始動した。（肉用牛の種畜場は、大正 5 年、油木に県立の種畜場を設置）昭和初期までに、日本型の酪農技術の基礎を築き、第二次世界大戦後の酪農が急速に拡大した時期には、酪農講習会を開催し、多くの酪農家を養成した。また、家畜人工授精師の養成や、乳牛の種雄牛精液の生産配布事業を行い、液状（非凍結）精液による人工授精技術の普及や、乳牛の増殖に貢献した。昭和 39 年からは黒毛和種精液の生産配布も行った。

【試験場時代】1972～1994 年

人工授精に用いる精液が凍結精液に切替わり、牛の改良に及ぼす種雄牛の影響が一層強くなったため、より正確な泌乳能力の評価が必要となった。そのため、検定方法を確立し、1975 年（昭和 50 年）から 1993 年（平成 5 年）まで、優良乳用種雄牛選抜事業の後代検定（ステーション検定）に取り組む、ホルスタインの泌乳能力の改良に大きく貢献した。その他、人工哺育、乳成分向上などの研究にも取り組んだ。1981 年（昭和 56 年）からは肉用牛部門が加わり、分娩間隔の短縮、林畜複合経営、低コスト放牧肥育など肉牛繁殖牛や肥育牛の飼育技術の研究に取り組んだ。

【畜産技術センター】1995 年～現在

生物工学部門を新設し、受精卵や遺伝子分野の研究を開始し、効率的な種雄牛選抜に向け、分割卵や受精卵クローン技術、DNA マーカーの研究を実施した。飼養部門では耕畜連携を重点分野に掲げ、飼料イネの研究に注力した。2008 年（平成 20 年）には、広島牛改良センターが七塚原に統合され、県有種雄牛の造成、精液配布業務を引き継いでいる。その他、畜産 DX の推進、広島和牛ブランドの向上、体外受精胚による和牛増産、国産飼料の拡大に向けた研究開発に取り組んでいる。

広島県の牛の種類別頭数の推移

パネルディスカッション パネラー紹介

広島県の「食の切り口」からの価値

◆料理人代表：勇崎 元浩(ゆうざき もとひろ)

広島市中区鞆町のフランス料理店「ル・トリスケル」のオーナーシェフ。
20年以上正統派フランス料理を提供する傍ら、県の料理人コンクールの審査員に携わるなど、後継者育成にも熱心に取り組む。
2023年にはフランス政府から農事功労賞シュバリエを授賞。

◆流通業界代表：垣本 隆司(かきもと たかし)

広島県食肉事業協同組合連合会会長。
食肉業界に長年携われ、福山地域の食肉卸売のプロフェッショナルとして、主に備後地域の食肉の安定供給に貢献。

◆和牛生産者代表：山岡 芳晴(やまおか よしはる)

庄原市和牛改良組合の組合長、広島県和牛育種組合理事長等、本県の和牛の育種と改良をけん引。
本人自身も、庄原市口和町で比婆牛の生産を行う。

◆乳牛生産者代表：温泉川 寛明(ゆのかわ ひろあき)

県内一円の酪農専門農協、広島県酪農業協同組合の代表理事組合長。
広島県酪農業協同組合は、令和6年に設立されて、今年で30周年という大きな節目を迎えた。

◆特別講演講師：板垣 貴志、河野 幸雄

●司会：宇田 久康(うだ ひさやす)

広島県農林水産局畜産課参事

(敬称略)

本日の試食会メニュー

◆試食会メニュー創作担当

水橋 聡(みずはし さとし)

辻料理専門学校卒業、複数のホテルで経験を積んだ後、ホテルセンチュリー21の新調理開発室料理長に就任。2004年に庄原市に移り、ひろしま県民の森総料理長を経て、2021年庄原市総領町に「アベニールタウン MIRAINOMACHI」を開業。

シェフのアイデアに基づく、地元庄原の素材を中心とした食材や調味料の配合、盛り付けなどによる創作料理を提供しています。



◆メニュー名:「比婆牛もも肉と庄原産チーズのサブレ」

○材料

比婆牛もも肉、チーズ工房ナチュラルチーズ（「雪子」※）、里芋、醤油、日本酒、ポルト酒、赤ワイン、マデラ酒

※「雪子」: 備前信村農吉のナチュラルチーズ。熟成度合によって香りとまろやかさが変化し料理への応用が可能

○料理内容

比婆牛もも肉をあえて熱々でないローストビーフにし、うま味、甘味、柔らかさを感じやすくしました。

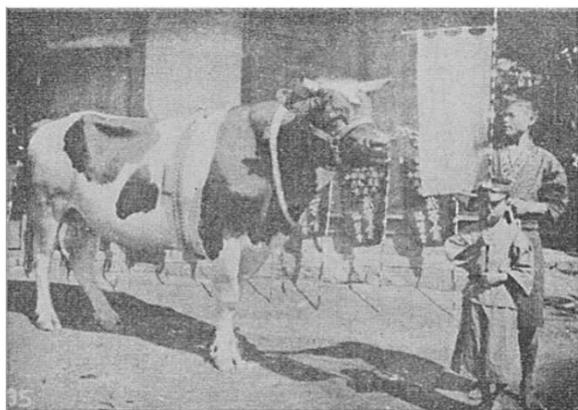
旬の里芋とナチュラルチーズを合わせて濃厚なピューレに仕上げ、サクツとしたサブレの上のにのせ、食感の違いを感じるようにしています。

ソースは、洋風でありながら、醤油、日本酒を使い、食べやすい味にしています。

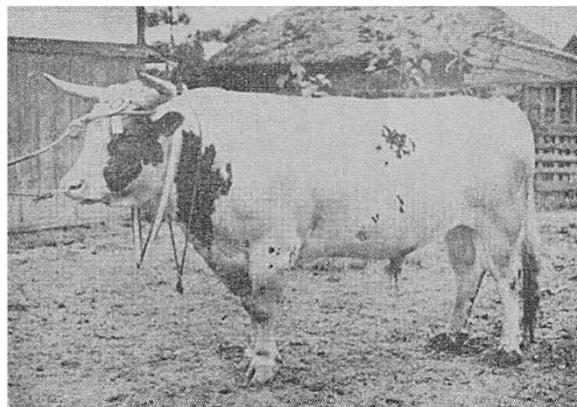


(敬称略)

広島県畜産共進会 初期の風景



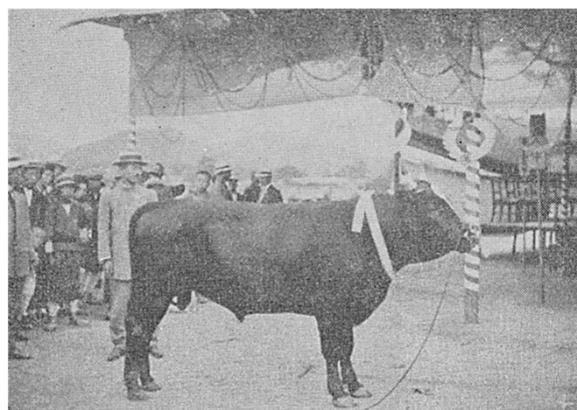
明治44年 第2回広島県産牛共進会
1等賞 ホルスタイン種(牡)



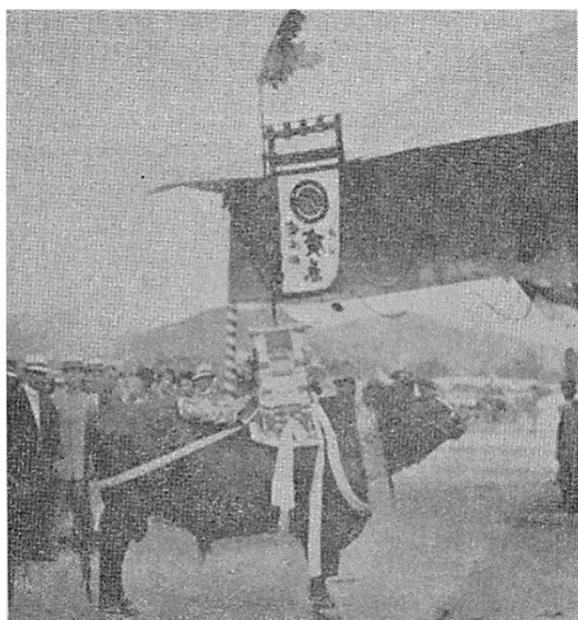
大正2年 第3回広島県産牛共進会
1等賞 エアシャー種(牡)



大正5年 第5回広島県産牛馬共進会々場



大正5年 第5回広島県産牛馬共進会
1等賞 和種(牡)



大正5年 第5回広島県産牛馬共進会
参考品飾牛(牡)

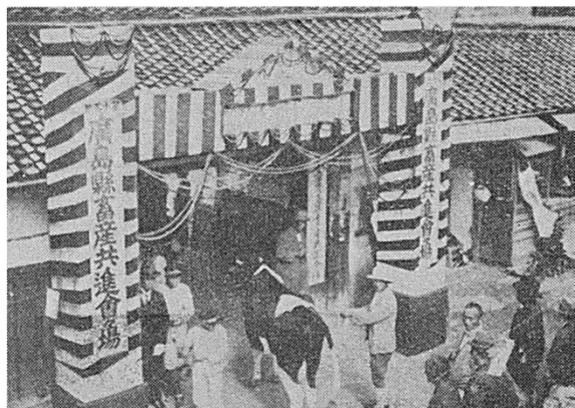


大正8年 第7回広島県畜産共進会

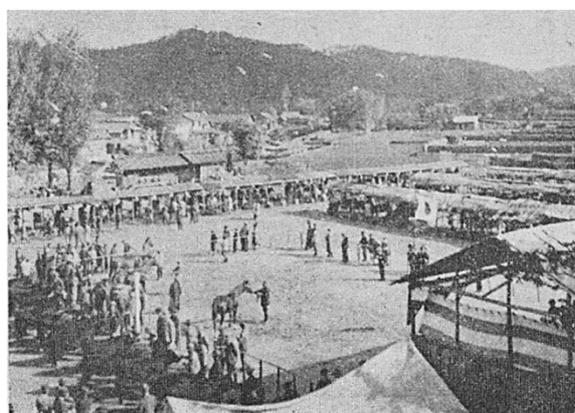
広島県畜産共進会 初期の風景



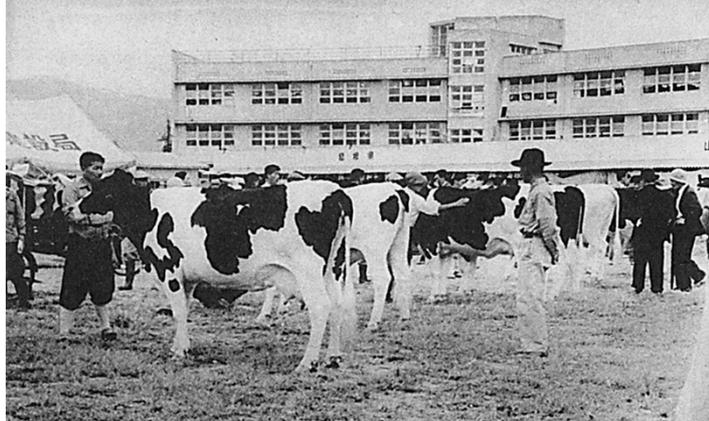
昭和2年 第12回広島県畜産共進会



昭和8年 第15回広島県畜産共進会



昭和13年 第19回広島県畜産共進会



昭和28年 第16回中国連合畜産共進会（広島市）

第6表 広島県畜産共進会の開催状況

回数	開催期	開催地	出品			
			和牛	肉牛	乳牛	馬
第1回	明治42年10月、日 // 42.	双三郡三次町 比婆郡庄原町	100			50
第2回	// 44.10. // 44.	神石郡油木町 比婆郡庄原町	100			50
第3回	大正 2. 9. // 2.11.	高田郡吉田町 双三郡三次町	100			50
第4回	{ 3. 9.27 // // 30 // 3.12. 1 // // 3	甲奴郡上下町 山県郡八重町	101			53
	// 5. 9.15 // // 24	広島市	102			41
	// 6. 9.15 // // 19	比婆郡庄原町	95			51
第7回	{ 8.11. 1 // // 5 // 9.10.26 // // 30	神石郡油木町 世羅郡甲山町	100			55
	// 9.10.26 // // 30	世羅郡甲山町	103			
	// 12.10. 9 // // 13	高田郡吉田町	98			
第9回 (産牛)	// 13.10. 9 // // 13	比婆郡庄原町	89			30
第11回	// 15.10 3 // // 13	山県郡八重町	100			
第12回	昭和 2.10. 9 // // 13	芦品郡府中町	100			50
第13回	// 5.10.11 // // 16	神石郡油木町	101			
第9回 (産馬)	// 5. 9.26 // // 28	比婆郡庄原町				30

初期の開催記録

○ 広島県畜産共進会開催関連年表

回数	開催年	(西暦)	開催場所	備考
-	明治33年	1900	-	
第1回	明治42年	1909	三次町・庄原町	農務省七塚原種牛牧場設置
第2回	明治44年	1911	油木町・庄原町	広島県主催で、広島県畜産共進会開始
第3回	大正2年	1913	吉田町・三次町	
第4回	大正3年	1914	上下町・八重町	
第5回	大正5年	1916	広島市	農務省畜産試験場中国市場と改称。広島県は神三郡に広島県種畜場を設置
第6回	大正6年	1917	庄原町	
第7回	大正8年	1919	油木町・甲山町	
第8回	大正9年	1920	甲山町	
第9回	大正12年	1923	吉田町	農務省畜産試験場中国市場の廃止を受け、広島県種畜場七塚原分場として発足
第10回	大正13年	1924	庄原町	
第11回	大正15年	1926	八重町	
第12回	昭和2年	1927	府中町	
第13回	昭和5年	1930	油木町	
第14回	昭和7年	1932	福山市	
第15回	昭和8年	1933	久井村	
第16回	昭和10年	1935	忍海町	
第17回	昭和11年	1936	十日市町	
第18回	昭和12年	1937	田総村	
第19回	昭和13年	1938	甲山町	
第20回	昭和14年	1939	新市町	
第21回	昭和15年	1940	庄原町	
第22回	昭和21年	1946	庄原町	
第23回	昭和22年	1947	松永町	
第24回	昭和23年	1948	庄原町・広島市	
第25回	昭和24年	1949	十日市町・呉市	
第26回	昭和25年	1950	尾道市	
第27回	昭和26年	1951	東城町	第1回全日本ホルスタイン共進会(神奈川県)
第28回	昭和27年	1952	油木町・尾道市	
第29回	昭和28年	1953	上下町・尾道市・広島市	第1回全国和牛共進会(広島市)
第30回	昭和29年	1954	府中市・尾道市	
第31回	昭和30年	1955	三門市・可部町	
第32回	昭和31年	1956	庄原市・尾道市・江田島町	第2回全日本ホルスタイン共進会(静岡県)
第33回	昭和32年	1957	吉田町	第2回全国和牛共進会(愛知県)
第34回	昭和33年	1958	尾道市	
第35回	昭和34年	1959	東城町・尾道市	
第36回	昭和35年	1960	西条町・尾道市	
第37回	昭和36年	1961	三次市・尾道市	第3回日本ホルスタイン共進会(長野県)
第38回	昭和37年	1962	庄原市・尾道市・広島市	
第39回	昭和38年	1963	竹原市・尾道市・広島市	
第40回	昭和39年	1964	甲山町・尾道市・広島市	
第41回	昭和40年	1965	尾道市・広島市	
第42回	昭和41年	1966	三次市・尾道市・広島市	第1回全国和牛共進会(岡山県)、第4回全日本ホルスタイン共進会(福島県)
第43回	昭和42年	1967	福山市・尾道市・広島市	
第44回	昭和43年	1968	庄原市・尾道市・広島市	
第45回	昭和44年	1969	三次市・尾道市・広島市	
第46回	昭和45年	1970	庄原市・尾道市・広島市	広島県畜産共進会畜産委主催となる。第2回全国和牛共進会(鹿児島県)、第5回全日本ホルスタイン共進会(愛知県)
第47回	昭和46年	1971	三次市・尾道市・広島市	
第48回	昭和47年	1972	庄原市・尾道市・広島市	
第49回	昭和48年	1973	三次市・尾道市・広島市	
第50回	昭和49年	1974	庄原市・尾道市・広島市	

回数	開催年	(西暦)	開催場所	備考
第51回	昭和50年	1975	庄原市	広島県畜産共進会は広島県経済農業委員会主催となる 第6回全日本ホルスタイン共進会(兵庫県)
第52回	昭和51年	1976	庄原市	
第53回	昭和52年	1977	庄原市	第3回全国和牛共進会(宮城県)
第54回	昭和53年	1978	庄原市	
第55回	昭和54年	1979	庄原市	
第56回	昭和55年	1980	三次市	
第57回	昭和56年	1981	三次市	第7回全日本ホルスタイン共進会(群馬県)
第58回	昭和57年	1982	庄原市	第4回全国和牛共進会(福島県)
第59回	昭和58年	1983	三次市	
第60回	昭和59年	1984	庄原市	
第61回	昭和60年	1985	三次市	第8回全日本ホルスタイン共進会(岩手県)
第62回	昭和61年	1986	庄原市	
第63回	昭和62年	1987	三次市	第5回全国和牛共進会(島根県)
第64回	昭和63年	1988	三次市	
第65回	昭和64年	1989	三次市	
第66回	平成2年	1990	庄原市	第9回全日本ホルスタイン共進会(熊本県)
第67回	平成3年	1991	三次市	
第68回	平成4年	1992	三次市	第6回全国和牛共進会(大分県)
第69回	平成5年	1993	三次市	
第70回	平成6年	1994	三次市	
第71回	平成7年	1995	三次市	第10回全日本ホルスタイン共進会(千葉県)
第72回	平成8年	1996	三次市・広島市	
第73回	平成9年	1997	三次市・広島市	第7回全国和牛共進会(岩手県)
第74回	平成10年	1998	三次市・広島市	
第75回	平成11年	1999	三次市・広島市	
第76回	平成12年	2000	三次市・広島市	第11回全日本ホルスタイン共進会(岡山県)
第77回	平成13年	2001	三次市・広島市	
第78回	平成14年	2002	三次市・広島市	第8回全国和牛共進会(岐阜県)
第79回	平成15年	2003	三次市・広島市	
第80回	平成16年	2004	三次市・広島市	
第81回	平成17年	2005	三次市・広島市	第12回全日本ホルスタイン共進会(栃木県)
第82回	平成18年	2006	三次市・広島市	
第83回	平成19年	2007	三次市・広島市	第9回全国和牛共進会(島根県)
第84回	平成20年	2008	三次市・広島市	
第85回	平成21年	2009	三次市・広島市	
第86回	平成22年	2010	三次市・広島市	
第87回	平成23年	2011	三次市・広島市	第13回全日本ホルスタイン共進会(中止)
第88回	平成24年	2012	三次市・広島市	第10回全国和牛共進会(長崎県)
第89回	平成25年	2013	三次市・広島市	
第90回	平成26年	2014	三次市・広島市	
第91回	平成27年	2015	三次市・広島市	第14回全国ホルスタイン種牛共進会(北海道)
第92回	平成28年	2016	三次市・広島市	
第93回	平成29年	2017	三次市・広島市	第11回全国和牛共進会(宮城県)
第94回	平成30年	2018	三次市・広島市	
第95回	令和1年	2019	三次市・広島市	
第96回	令和2年	2020	三次市・広島市	第15回全国ホルスタイン種牛共進会(中止)
第97回	令和3年	2021	三次市・広島市	
第98回	令和4年	2022	三次市・広島市	第12回全国和牛共進会(鹿児島県)
第99回	令和5年	2023	三次市・広島市	
第100回	令和6年	2024	三次市・広島市	